

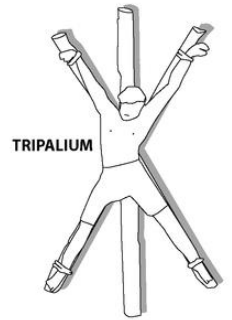
ニュー・ツェリズム研究

ツーリズムとは

旅行を表す英語には、「tour」「travel」「journey」「trip」があります。それぞれの語源から元々の意味を探ってみます。

tour の語源は、ギリシア語の tornos（トルノス）で、円を描く大工道具（コンパス）のことでした。回転する（させる）という英語の turn（ターン）と同じ語源です。円は、ある場所から出発しても必ず元に戻るの、tour は周遊の意味を持っています。

travel の語源は、フランス語の travail（トラヴァイク：仕事）で、travail の語源は、ラテン語の trepalium（トレパリウム）で、tres（3つ）-palus（棒）、3つの棒による拷問器具だったようです。（wikipedia english 版より）。これが奴隷の責め具などに使われ、仕事や骨折りという意味に転じた。travel は骨が折れるものだったようです。英語の travel は、ある地点から別の地点まで移動するときに使われます。



journey の語源は、ラテン語の diurnus（ジャーナス：一日の）です。これがフランス語で journee になり、一日分の労働や一日分の移動を意味しました。journal（日誌）、journalist（ジャーナリスト）も同じ語源です。英語では、移動の期間を表すときに journey を使います。

trip の語源は、フランス語の triper（跳ね回る）で、triper の語源は、trippen（軽く跳びながら進む）ー der（踏む）です。つまり、軽く跳び跳ねながら進むことです。英語の trip は、ちょっとひと足、短い期間でどこかまで行くときに使われます。

一方、日本の「観光」は、明治末期に外来した tourism の和訳とされている。語源は、中国の儒教經典のひとつ「易経」の中の「觀國之光（国の光を観る）」とされます。そこで、日本の「観光」の概念は tourism と比べて狭く捉えられ、いまだに定義されていません。

世界観光機関（UNWTO）は、「ツーリズムは、継続して1年を超えない期間で、レジャー、ビジネス、その他の目的で日常生活圏外の場所を訪れ、そこで滞在する人々の諸活動であって、旅行・滞在先で報酬を得ることを目的とする活動を除くものからなる」としています。具体的には、レジャー・レクリエーション・休養・鑑賞・見物・友人親戚訪問・業務出張・会議出席・展示会・視察・治療・健康診断・温泉療法・美容外科・宗教行事参列・巡礼・交流活動・語学研修・ボランティア活動・合宿・キャンプなどになります。日本では「観光」より、「旅行」の意味により近いものになります。

疑似イベント（観光における作りものと本物感）

観光分野において本物（オーセンティシティ）はいわゆる、「作りもの」の対照的なものとして捉えられてきました。アメリカの文明史家ブーアスティンはメディアによるイメージの大量生産は、われわれの想像力にも真実らしさの観念にも決定的影響を及ぼしたとして、大衆の欲望にあわせてメディアが製造する「事実・本物」のことを「疑似イベント」と呼んでいます。

例えば、疑似イベント化された社会では、旅行者は「現実によってイメージを確かめるのではなく、イメージによって現実を確かめるために旅行する」。「旅行はガイドや雑誌、テレビからの情報によって、人々はすでに旅行先についてのイメージを持っており、それをアリバイ的に確認するために旅に出かけるのである。このとき、観光地のほうでもそうしたメディアの表象にあわせて土地の風景を変えていくという反転した状況が生じる。このような倒錯した関係が、広告や都市、政治的事件から有名人までのさまざまな社会領域で同時に生じている」としました。

ブーアスティンはまた、観光客を標的にしたアトラクションは例外なく人為的で疑似イベントの様相を呈しているとし、本来あるべき場所から運び出された文化的産物の集積所という意味では、美術館もその一例だと述べています。

美術館に焦点を当ててみます。徳島県鳴門市の大塚国際美術館は、名画 1000 点を陶板で再現しておりいわゆる「作りもの」が展示されています。にもかかわらず、2018 年度は 42 万人もの入館者が訪れました（参考：岡山県立美術館 16 万人、香川県立ミュージアム 10 万人、愛媛県立美術館 37 万人、高知県立美術館 15 万人、徳島県立近代美術館 9 万人）

これは、観光客の全てが必ずしも歴史的ないし芸術的に本物という意味でのオーセンティシティ（本物）を求めているわけではなく、たとえ「作りもの」や「擬似的な体験」であったとしても多くの観光客がそれに満足していることを表しています。このように、「本物感」とは変化する概念で、重要なのは受け手にとって「本物」に映るかどうかです。

こうした視点を踏まえると、観光資源自体が本物かどうかよりも、観光客がそれをどのように捉えているかのほうが重要になってきます。インバウンドにしても日本文化に精通し「ほんもの」を知っている外国人を除けば、本物よりも本物感という視点に立って観光資源を捉えていくほうが現実的です。

現代のツーリズム・ビジネスにおいては、地域の様々な環境、製品、サービスと、観光客が期待するイメージとが一貫していて、かつ一致していると観光客に認識されたときにはじめて「本物」になるということです。

マスツーリズムとニュー・ツーリズム

1960年代以降の大量生産・大量消費時代を背景に「観光」が商品化され一般大衆化しました。これをマスツーリズムと呼びます。観光事業者らが企画制作した団体旅行や、パッケージツアーなどの観光商品を消費者が消費します。商品は、都会の消費者に対しては地方の風景・史跡めぐり、地方の消費者に対しては都会の風景・文化などを「観光」の対象としていました。観光資源のある「秘境」まで道路を通し巨大な宿泊施設を建てる開発が行われ、自然・文化財・景観の破壊などが顕著になり社会問題化しました。

これを受けて、1970年代に入ると観光地の維持とゲストとホストの関係改善を目指すオルタナティブ・ツーリズムが提唱されました。「異なったコミュニティの人たちの間で行われる相互理解、連帯性、平等を志向」しています。具体的には、地元の人が宿泊施設の運営に直接関わり地元の人がそこで働き、旅行者とコミュニケーションをとるといった形です。

また、1989年に観光者が自身の興味や関心に沿って、主体的に行先や観光内容を決定する、ニュー・ツーリズム（狭義）が観光学者ブーンによって提唱されました。これは、旅行形態が団体ではなく個人あるいは小グループで、個人・グループの知的関心や趣味に基づいて旅行先を決めるという、マスツーリズムと対極する旅行形態です。

一方、マスツーリズムの環境破壊問題に対して、サステナブル（持続可能な）な、いわゆる、旅行者受け入れによる環境負荷を低くするグリーン・ツーリズムやアグリ・ツーリズム、エコ・ツーリズムなどを含んだ旅行形態が新しく生まれました。

そして、旅行客受入先の地元が、地元主体で旅行商品やイベント企画を行う着地型観光が行われました。これは、都市部の観光ニーズをもとに開発される従来の観光商品＝発地型観光とは異なる観光で、特にインバウンドにおいて地方の活性化とともに地方誘致促進に効果があるとし、国交省・観光庁なども力を入れるようになりました。

現在の日本では「ニュー・ツーリズム」を、狭義のニュー・ツーリズム、サステナブル観光、着地型観光など「新しい旅行」の総称として使用しています。観光庁も「ニュー・ツーリズム」を推進しており、行政用語としての意味合いも強くなっています。

大橋昭一（2013）「観光学のあり方を求めてー現状と展望」『観光学評論 vol.1-1 (2013) pp.5-17』

小長谷一之・竹田義則（2011）「観光まちづくりにおける新しい概念・観光要素/リーダーモデルについて」『大阪観光大学観光学研究所年報観光研究論集第10号』

文化庁 「公立博物館における来館者数の状況について」（令和元年10月）

戦前戦後・日本の観光の歴史

（戦前の動き）

1912 年	外貨獲得のため、外国人旅客の誘致接遇を業務とする「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」が開設された。
1930 年	国際観光局を設立し日本の紹介を始めた。ビューローは訪日外国人と日本人旅行者の斡旋を行う。
1930 年代	日本国有鉄道（元 JR）は、団体旅行の募集をビューローに業務委託。ビューローは全国に支部を設立した。
1942 年	ビューローは東亜旅行社に改称し、国鉄は人員不足のため、全ての団体券、回数券、定期券販売を東亜旅行者に業務委託。その後、各種切符・旅館券の発行・団体旅行募集・外国人旅行斡旋などを独占する。

（戦後の動き）

1945 年	戦後、東亜旅行社は財団法人日本交通公社として再出発。進駐軍の斡旋と帰還、引揚者の斡旋を行う。経済の復興と共に町内の団体旅行、買い出し旅行、児童の修学旅行、慰安旅行などが行われるようになった。
1951 年	5 月の連休に映画が大ヒットしたことから、映画会社（大映）が映画の宣伝ために「ゴールデンウィーク」という言葉を創作した。この時代が映画の黄金期だった。
1955 年	国鉄が指定地域の周遊割引の販売を開始。海水浴やスキー旅行が人気になった。
1964 年	東京オリンピック開催のため、名神高速道路、東海道新幹線を開通させ、ホテルの改善が行われた。これに先立ち、日本航空の太平洋線と国内線にジャンボジェット機が就航された。政府関係・業務・留学に限定されていた海外渡航が「年 1 回、外貨持ち出し 500 ドルまで」の制限付きで自由化された。これを受け日本航空は「ジャルパック」を発売。日本交通公社（現 JTB）は前年に民営化。 ＜旅行会社や交通運輸会社が観光商品を開発し販売する「発地型観光」が主となる＞
1970 年	日本万国博覧会（大阪万博）開催。183 日間の期間で 6400 万人の集客をした。 国鉄が「ディスカバー・ジャパン・キャンペーン」プロモーションを展開し、個人旅行拡大キャンペーンを実施。これにより、団体旅行が主だった旅行形態を個人旅行に向けさせた。
1970 年代	70 年、71 年に創刊された女性雑誌「an・an」「non-no」が各地の町並み、宿場をモデルを使って紹介すると若い女性が個人旅行を行う「アンノン族」が誕生した。これにより、各観光地は若い女性をターゲットとした街づくりを意識するようになる。 国鉄は、78 年に女性をターゲットした「いい日旅立ち」キャンペーンを行う。
1980 年代	雑誌記事や書籍などから、全国の秘湯や露店風呂を訪ねる「温泉ブーム」が起こる。主役は若い OL 層や女子大生で、少人数のグループで温泉地を訪れた。各観光地は若い女性をターゲットとした街づくりを意識するようになる。
1983 年	東京ディズニーランド・長崎オランダ村開園。バブル期とあいまって、ホテル・旅館の開業が相次いだ。
1990 年代	バブル崩壊後、体力を失った地方自治体が変わり、地域住民や地元企業からなる地域コミュニティが地域資源を発掘創造する「まちおこし」を行う。 ＜観光や旅行先（着地点）が旅行商品を開発し発振する「着地型観光」が活発になる＞
2000 年代	格安航空会社が大手航空会社の半額で就航。交通手段や宿泊予約をインターネットで行うオンライン予約が普及。
2010 年代	SNS の普及で、個人による旅行の受発信が可能になり、観光客が旅行消費者だけでなく情報発信媒体として大きな影響を持ってくる。

ニュー・ツーリズムの特性

観光庁では、2016年より「観光地域づくり」として、ニュー・ツーリズムを捉えています。目的は、「国内外の観光客が全国各地を訪れる動機を与えるため、特定の観光資源に魅せられて日本各地を訪れる『テーマ別観光』のモデルケースの形成を促進し、地方誘客を図る。」としています。

ニュー・ツーリズムを展開することで、「特定のテーマに関心の高い旅行者にとって、より魅力的な旅行を享受」でき、「地域においては旅行者の複数地域への来訪需要を創出、地域間で課題や成功事例を共有することで効果的な観光振興策を推進」できるとしています。

これまで、「エコ・ツーリズム」「街道観光」「酒蔵・ツーリズム」「社寺観光」「明治日本の産業革命遺産」「ロケ・ツーリズム」「古民家等の歴史的資源」「日本巡礼文化発祥の道」「アニメ・ツーリズム」「サイクル・ツーリズム」「全国ご当地マラソン」「忍者ツーリズム」「百年料亭」「Industrial Study Tourism」「ONSEN・ガストロノミーツーリズム」「郷土食探訪～フード・ツーリズム」「宙ツーリズム」を支援しています。

1 「特定のテーマに関心の高い旅行者にとって、より魅力的な旅行を享受」

ニュー・ツーリズムは、観光の目的や目的地、観光内容がマス・ツーリズムと比べかなり限定的で、個人や小規模グループで行動するのが基本になっています。

2 「地域においては旅行者の複数地域への来訪需要を創出」

ニュー・ツーリズムを展開する地域ネットワークを構築し周遊性を確保することで、地域セットとして効率よく誘致を図ることができます。

3 「新しい観光コンテンツの開発」

観光がいわゆる物見遊山やショッピング型から、「体験」「感動」「共有」することに価値を見出すことに変化しています。この変化に対応した観光コンテンツを開発提供していくことが求められています。

エコ・ツーリズム

環境省では、「エコツーリズムとは、地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みです。観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まり、活性化させるだけでなく、地域のこのような一連の取り組みによって地域社会そのものが活性化されていくと考えられます。」としています。

エコツーリズムの推進のため制定された「エコツーリズム推進法」は、地域でエコツーリズムに取り組む総合的な枠組みを定めた法律で平成 19 年 6 月に成立しました。エコツーリズムを通して、自然環境を保全し、後世に伝えていくことを目的としており、自然公園など、法律によって保護されている地域以外でも関係者間の合意によって立ち入り人数の制限や、罰則の伴うルールを設けることができます。法律では、「自然環境の保全」「観光振興」「地域振興」「環境教育の場としての活用」の 4 つを実現させることを基本理念としています。

エコツーリズム推進法で全体構想が認定された団体一覧

2009 年	飯能市エコツーリズム推進協議会
2012 年	渡嘉敷村及び座間味村エコツーリズム推進協議会
2012 年	谷川岳エコツーリズム推進協議会
2014 年	鳥羽市エコツーリズム推進協議会
2014 年	名張市エコツーリズム推進協議会
2014 年	南丹市美山エコツーリズム推進協議会
2016 年	小笠原エコツーリズム推進協議会
2016 年	てしかがえこまち推進協議会
2017 年	上市まちのわ推進協議会
2017 年	愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会
2017 年	串間エコツーリズム推進協議会
2017 年	奄美諸島エコツーリズム推進協議会
2018 年	檜原村エコツーリズム推進協議会
2018 年	下呂市エコツーリズム推進協議会
2018 年	赤城山エコツーリズム推進協議会
2019 年	阿蘇ジオパーク推進協議会
2019 年	吉野川紀の川源流エコツーリズム推進協議会



01北海道

てしかが
弟子屈町

てしかがえこまち推進協議会

火山・森・湖が織りなす原生景観



02群馬県

みなかみ町

谷川岳エコツーリズム推進協議会

楽しさ色々、近くてよい山

弟子屈町は、ひがし北海道の中心部に位置し、世界有数の透明度を誇る摩周湖や、巨大なカルデラ湖である屈斜路湖、今なお活発に噴気を上げるアトサスプリ（硫黄山）など、町域の約65%が阿寒摩周国立公園に指定されており、豊かな自然に囲まれています。

また、アトサスプリを源泉とする川湯温泉は強酸性のお湯として有名です。さらに、冷涼な気候を生かして生産されるおいしい農作物、そして広大な大地に広がる農業・牧草風景もこの町の自慢です。水や森に代表される豊かな自然に加え、アイヌの人々の文化も残っています。壮大な自然のもと、カヌーやトレッキング、星空や雲海のツアー、乗馬や酪農体験など幅広いエコツーリズムに参加できます。

四季折々のエコツーリズム



アトサスプリ・トレッキングツアー
大地の脈動を五感で感じる活火山ツアー



摩周湖星紀行
展望台から360度に広がる満天の星空



カヌーツアー
屈斜路湖から新田川清流の豊かな森と清流へ



氷水ツアー
幻想的な霧氷の世界に出かけよう！

お問い合わせ先

エコツーリズムについて
株式会社アトサスプリ・エコツーリズムでしかが
北海道川上郡弟子屈町川湯温泉1丁目2-30
川湯観光ホテル内
☎ 015-483-2101
http://tourism-teshikaga.co.jp/
弟子屈町のエコツーリズムについて
てしかがえこまち推進協議会
(事務局：弟子屈町観光工務課)
☎ 015-482-2940

弟子屈町の美味しいもの

摩周そば

弟子屈の冷涼な気候と風土を活かして大切に育てられる「摩周そば」は、鮮やかな薄緑色で風味豊かな味と香りが楽しめます。全国の名店から注文の絶えない人気の逸品です。



群馬県みなかみ町は、東京から上越新幹線で最短66分、開越自動車道では群馬から1時間30分の場所にありながら、山、森、川の豊かな自然が織りなす絶景がみられる町です。谷川岳エコツーリズム推進協議会の主なフィールドは、新湖泉と泉の間に位置する上信越高原国立公園「谷川岳」。谷川岳は「日本百名山」の1つであり、ハイキングからロッククライミングまで、幅広いエコツーリズムの体験が可能な山です。

谷川岳エコツーリズム推進協議会では「守る」「活かす」「活かす」の3つの基本方針のもと、自然を活かしたエコツーリズムを行っています。また、一歩自然に出るまでの道のり、マイカー規制により歩行者の安全が確保されているほか、電気バス「一ちゃん」「倉ちゃん」によって向かうことも可能です。

四季折々のエコツーリズム



山の日イベント in 谷川岳
初心者・経験者を対象に様々なツアーを開催



スノーシューフェスティバル
雪山を駆け巡るガイドと行く



アウトドア天国
日本一のアウトドアアクティビティ！



登山
本格的登山からトレッキングまで楽しめます

お問い合わせ先

エコツーリズムについて
みなかみ町観光協会
群馬県利根郡みなかみ町月夜野1744-1
☎ 0278-62-0401
http://www.minakami-ecotourism.jp
谷川岳のエコツーリズムについて
谷川岳エコツーリズム推進協議会
(事務局：みなかみ町)
☎ 0278-62-2111 (代表)

みなかみ町の美味しいもの

ぐんま名産

ぐんま名産は、ふるさと納税の返礼品としても人気の山盛りんごです。中でも「みなかみ珠玉」に認定されたものは、ほとんど一般市場に出回らないプレミアム品です。



03群馬県

前橋市

赤城山エコツーリズム推進協議会

都心から2時間で自然を満喫！



04埼玉県

飯能市

飯能市エコツーリズム推進協議会

すぐそばのふるさとでお待ちしています

「日本百名山」の1つである赤城山は、黒檜山や地蔵岳、鈴ヶ岳などいくつもの山や、大沼、小沼、覚満湖などの名所を有する地域の総称です。自然体験できるリゾートとして親しまれ、四季折々の登山をはじめ、大沼でのボート、ワカサギのボート釣りや氷上穴釣り、そしてスノーシューや雪遊び、e-Bikeなど、年間を通じて様々なアクティビティが楽しめます。

特に、豊富な種類の植物が楽しめる高層湿原「覚満湖」や、10万株のツツジが咲く「赤城白樺牧場」は、多様な植生環境や自然景観を守るため、多くの人が環境保全活動を行いながら、エコツーリズムなどを通して赤城山の魅力を発信することで、持続可能な地域づくりを進めています。

四季折々のエコツーリズム



赤城白樺牧場 秘密の絶景ツアー
普段は見えない絶景の森をガイドがご案内



e-Bike サイクリングツアー
道端ラクラクなe-Bikeで赤城山を巡る



覚満湖自然観察会
覚満湖の自然を学ぶ



赤城山スノーシューハイキング
雪原を歩く

お問い合わせ先

エコツーリズムについて
赤城山エコツーリズム推進協議会
(事務局：前橋市 赤城山エコツーリズム推進課)
☎ 027-212-2611
https://www.akagi-trip.com
赤城山のエコツーリズムについて
赤城山エコツーリズム推進協議会
(事務局：前橋市環境政策課)
☎ 027-898-6292

赤城山の美味しいもの

ワカサギ

赤城山の名物といえば大沼のワカサギです。秋はボート釣り、冬は氷上穴釣り大沼で氷上のワカサギ釣りが楽しめます。また、湖畔では大沼のワカサギ定食を食べることができます。



飯能市は埼玉県の南西部に位置し、都心から約50km、電車で約40分でありながら、市域の75%は森林で、清らかな川が流れる自然豊かなまちです。

飯能のエコツーリズムは、「人と人とのふれあい」と「体験」を重視し、「地域の人が地域の言葉で地域を案内」をコンセプトに、里地里山で育まれてきた生活文化や、かつてどこでもみられた自然環境など地域にあるものを題材にして、年間約100ツアー以上を開催しています。

身近な里地里山で、とっておきの体験をしてみませんか。すぐそばのふるさとでお待ちしています。

四季折々のエコツーリズム



飯能パワースポット・プチ登山
新年にパワースポット巡り！



西川材でモノづくり
飯能材を使って世界に一つの家具づくり



入間川リバーレッキング
川歩きを楽しみつつ自然観察！



うどん作り体験
古民家で手づくりうどんに挑戦！

お問い合わせ先

飯能市エコツーリズム推進協議会
(事務局：飯能市観光・エコツーリズム推進課)
埼玉県飯能市大字双蓮1番地の1
☎ 049-973-2911 (平日 9:30～17:15)
https://www.hanne-eco.net/index.html

飯能市の美味しいもの

武州飯能うどん

「武州飯能うどん」の特徴は、素材の味がしっかりと出ていて肉は豚肉、コンの強いうどんを主に「つけ」で食べることにあります。店によって味は千差万別でバリエーションにも富んでいます。





05 東京都
ひのほろ 檜原村
檜原村エコツーリズム推進協議会

**ガイドの個性が光るエコツーリズム
「東京ひのほろランド」**

東京都の西の奥地、檜原村の土地（LAND）全域、土地そのものの魅力を引き出して遊ぶ「東京ひのほろランド（Tokyo Hinohoro Land）」、エコツアーガイドが檜原村の魅力をギュッとツアーに凝縮しました。四季折々、その季節に合った最高の体験を、檜原村で活動してきた個性豊かなガイド陣が案内します。ハイキング、自然体験、歴史散策、ハンモック、川遊び、サイクリング、MTB（マウンテンバイク）、トレイルランニング、農作業や山仕事、村の暮らしまで、様々な体験と学びを「エコツアー」としてご提供しています。



檜原村の美味しいもの
じゃがいも

檜原村の畑は傾斜地で水はけが良く美味しいじゃがいもができます。畑を多めに入れたお湯でそのまま茹で、茹でたてを皮を剥きながら食べる。村人の美味しい食べ方です。



四季折々のエコツアー
つるカゴ作りワークショップ

暮が取れる冬限定。昔ながらの生活体験

1～2月



お茶づくりと檜原村の自然満喫ツアー

山の中の小さな畑で自分だけのお茶を手作り

5月



トラックチューブで渓谷どんぶらこ

車のチューブで川下り、昔の遊びを身体体験

7～8月



電動アシスト自転車で電通り

車や徒歩では難しい道通りを電動アシスト車で

通年

お問い合わせ先

エコツアーについて
NPO法人フジの森
東京都西多摩郡檜原村南郷 5990-1
☎ 042-598-6928
<http://hinohoro-land.jp/>
檜原村のエコツーリズムについて
檜原村エコツーリズム推進協議会
（事務局：檜原村産業環境課観光工務係）
☎ 042-598-1011

東 京から南に約1000kmの亜熱帯の島々からなる小笠原諸島。大陸や他の島々から遠く離れた環境により、独自の進化を遂げた固有の動物や植物が残りやす自然が、小笠原のエコツーリズムの舞台です。ボンニプルと呼ばれる深く潜み通った海では、子育てを行うザトウクジラやイルカ、亜熱帯の魚たちやアオウミガメに、世界自然遺産に登録された常緑の森では固有の動植物たちに出合えます。他にも、2度の日本一に輝く星空や太平洋戦争の多くの戦跡、タコの葉細工等に垣間見える独自の文化など魅力がいっぱい。24時間の長い船旅の先には、「心、動く」楽園の島が待っています。



小笠原の美味しいもの
パッションフルーツ

亜熱帯気候の小笠原ではトロピカルフルーツの生産が盛んです。中でもパッションフルーツは甘さと酸味のバランスが取れた濃厚な味わいで人気。



四季折々のエコツアー
ザトウクジラホエールウォッチング

10mを超えるクジラのダイナミックな姿は必見！

12月～5月
11～2月～3月



ドルフィンスイム・ウォッチング

潜み切った青い海でイルカたちと遊びましょう

観覧通年



フィールドツアー

島の自然や歴史に精通したガイドと美しい山歩き

通年



ナイトツアー

素晴らしい星空、夜の生き物たちの姿を見に行こう

通年

お問い合わせ先

エコツアーについて
小笠原村観光協会（父島）/ 小笠原母島観光協会（母島）
東京都小笠原村父島字東町（父島）
東京都小笠原村母島字光地（母島）
☎ 04998-2-2587（父島） ☎ 04998-3-2300（母島）
<https://www.ogasawaramura.com/>（父島）
<https://hahajima.com/>（母島）
小笠原のエコツーリズムについて
小笠原エコツーリズム協議会（事務局：小笠原村産業観光課）
☎ 04998-2-3114



北 アルプス立山連峰で最も高く険しくそびえる雪峰絶頂。古くから山岳信仰や修験の中心をなす山として崇められ、その麓に上市町が位置しています。雪峰絶頂は、上市町のすべての源流。山岳信仰に彩られた古刹や新りの跡も、心と体を癒し潤す雪水も、風土の恵みに満ちた実りや生業も、すべて絶頂を源流として今に続いています。だから、ここには「本物」があります。古刹「大岩山日石寺」「観目山立山寺」を生かした修行体験や森林セラピー体験、絶頂と富山湾を一度に眺望できるトレッキングルートの紹介など、「町の宝を活かす・守る・伝える」を基本に、観光を活用した持続可能な地域振興を目指しています。雪峰絶頂の麓で出会う自然豊かな恵みの里、新りの里を体感ください。

上市町の美味しいもの
大岩そうめん

大岩山日石寺の門前街で味わうことができる「大岩そうめん」町観光協会では流行などの修行体験と大岩そうめんがセットとなった着地型ツアーを提供しています。



四季折々のエコツアー
大岩山日石寺 修行体験

修行、弘法が御持仏を参るツアー

通年



セラピー体験

癒し、癒く・五感で森林パワーを楽しむ

3～12月



トレッキング

初心者から楽しめる日帰りコース

5～11月



フォトゲイニング® 上市町のわ

町の宝（資源）を巡りポイント探し楽しむ大会

10月

お問い合わせ先

エコツアーについて
上市町観光協会
富山県中野川町上市町若杉3番地3
☎ 076-472-1515
<http://kamin-haba.net/>
上市町のエコツーリズムについて
上市町の観光協会
（事務局：上市町産業環境課観光工務係）
☎ 076-472-1111

岐 県東中部に位置する下呂市は、1000年以上の歴史を持つ「日本三名泉」の下呂温泉や国民保養温泉地に指定されている飛騨小坂温泉郷など、名だたる温泉地を有し、年間約110万人の宿泊者がある日本でも有数の観光地です。飛騨木曾川国定公園や岐阜県立自然公園など市域の約9割は山林で、標高差は2,800mもあります。御嶽山の噴火による溶岩が複雑な地形をつくりだし、様々な美しい景観や、暖温帯と冷温帯の移行帯の森など、植生の多様性を生み出しています。下呂市ではDMO委員会と連携してエコツーリズムとDMOを融合したE-DMO活動を実施しており、多種多様なエコツアーを開発し宿泊型エコツーリズムを推進しています。

下呂市の美味しいもの
銀の船（お米）

「お米日本一コンテスト in しずおか」で平成29、30年と2年連続で特別最高金賞を受賞。食用米において日本一大きな粒で輝くツヤとモチモチ食感が特徴。



四季折々のエコツアー
小坂冬の滝めぐりツアー

氷と雪の世界、息をのむ神聖の絶景ツアー

1月下旬～3月中旬



小坂のシャワークライミング

ずり滑れを楽しみ夏の清流アドベンチャー

6月下旬～9月下旬



筋骨めぐり

レトロな昭和の風景、筋骨と呼ばれる路地裏を巡る

通年



馬瀬里山ミュージアムガイドツアー

農村景観や日常の暮らし、文化をあるごと野外博物館に見立てた観光ツアー

通年

お問い合わせ先

下呂市エコツーリズム推進協議会
（事務局：一般社団法人下呂温泉観光協会内）
岐阜県下呂市 922-6
☎ 0576-24-1000
<https://www.gero-spa.com/>



09三重県

とば
鳥羽市

鳥羽市エコツーリズム推進協議会

島と入江が織りなす絶景と 海女文化を楽しむ

鳥羽市は伊勢湾の入口に位置し、様々な島と入り江が織りなすリアス海岸を有しており、全域が伊勢志摩国立公園に指定されています。鳥羽の海は、栄養塩豊富な内湾水と太平洋が入り混じることから、古くから漁業が盛んに行われてきました。また、伊勢神宮の宿泊地として多くの人や船が行き来する港として栄え、現代では鳥羽水族館やミモト真珠島といった観光施設や豊かな海産物を求めて、年約430万人の観光客が訪れる「漁業と観光のまち」です。

鳥羽市では、日本一海女が多いまちとして、現役海女さんとの交流体験や、豊富な海洋資源を活かした漁業体験、独特の生活を感じることができる離島の散策ツアー等、様々なエコツアーを楽しめます！

四季折々のエコツアー



無人島カヤックツアー（海島遊民6お）
無人島を自由に出発！カヤック/ノットカヤック！



離島の路地裏散策（島の旅社）
離島の漁村ならではの趣い路地裏を歩き、島の文化について学びます！



海女小屋体験（はちまかまど・船客かまど）
海女小屋で海女さんの話を聞きながら食事します！



漁業体験プログラム（漁村 Fisherman Club）
様々な漁業体験ができます！（写真はイメージ）

お問い合わせ先

エコツアーについて
（一社）鳥羽市観光協会
三重県鳥羽市大町東町1-7
☎ 0599-25-3019
http://www.toba.go.jp/
鳥羽市エコツーリズムデスクについて
鳥羽市エコツーリズム推進協議会
（事務局：鳥羽市観光課）
☎ 0599-25-1157



10三重県

なび
名張市

名張市エコツーリズム推進協議会

みんなの自然体験を応援します！

古くは万葉の時代から東西往来の要所、宿場として栄えてきた名張市は、商業・業務施設の集まる市街地を中心に、周囲を山地に取り囲まれた盆地を形成しています。周囲の山地には、日本の滝百選、森林浴の森日本100選や平成の名水百選に選定された「赤目四十八滝」「竹苦湯」などがあり、自然豊かな景観地に恵まれています。

また、名張川をはじめ、宇陀川、青龍寺川など幾筋もの河川が市内を流れ、四季折々の美しい景観を演出しています。さらに、本市は古事記や日本書紀にその名が登場するとともに、能楽の始祖観阿弥が初めて座を興した地としても知られ、歴史と文化の薫り高いまちでもあります。

四季折々のエコツアー



ぶどう狩り・いちご狩り
ぶどうやいちごを収穫し旬の味覚を楽しむ



ちびっこわくわく体験ECOツアー
雑木林や沢で昆虫、小魚、沢魚等の生き物を観察



忍者の森
石巻の修験場である滝や自然、歴史を紹介



赤目渓谷・ガイドと歩く苔さんぽ
個性豊かな苔道をムービーで観察

お問い合わせ先

エコツアーについて
赤目四十八滝渓谷保護会エコツアーデスク
三重県名張市本町東町 801-1
☎ 0595-64-2695
http://www.akame48taki.com
名張市エコツーリズムについて
名張市エコツーリズム推進協議会
（事務局：名張市産業観光交流課）
☎ 0595-63-7648

鳥羽市の美味しいもの

答志島トロさわら
答志島近海のサワラは伊勢湾に群れる鰯の奥の奥の小魚を捕食して大きくなり、秋から冬にかけて産卵し、中トロのような味わいになります。一般的にサワラといえば西京焼き等ですが、鳥羽では刺身が炙り（たたき）が主流です。



名張市の美味しいもの

伊賀牛
豊かな香り、まろやかな肉質、あっさりとした甘みのある脂身が特徴の伊賀牛。生産された肉の約8割が伊賀地方で消費されていて、伊賀の他ではなかなか目におかれません。



11京都府

なんたん
南丹市

南丹市美山エコツーリズム推進協議会

暮らしを旅する美山のエコツアー体験

南丹市美山町は京都府の中央部に位置し、京都市内から車で90分ほど走ると日本の原風景に出会うことができます。美山かやぶきの里には今なお39棟のかやぶき屋根が残り、昔ながらの人々の暮らしを垣間見ることができます。

かやぶき屋根の民家に泊まって昔ながらの暮らしを体験することも可能です。夕食の地どころのきききは美山に来た外せない美山グルメです。

町の東部には京都大学農学研究所林が広がり、「再生の森ネイチャーガイドレッキングツアー」が実施されています。このツアーでは四季折々の動植物を見ることができ、何度も参加したくなるリピート必須のツアーです。

清流由良川での川遊びやラフティング、カヤックは家族連れに人気で、夜にはキャンプをして天体観測を通して過ごすのもおすすめです。

四季折々のエコツアー



スノーシュー
ネイチャーガイドと冬の里山を歩く



トレッキング
美山船場の滝「滝の洞トレッキング」



貼つかみ
清流由良川での貼つかみ



藁細工
地元の人々としめ縄を作る

お問い合わせ先

南丹市美山エコツーリズム推進協議会
（事務局：一般社団法人
南丹市美山観光まちづくり協会）
京都府南丹市美山町美山第23
☎ 0774-75-9300（未定休）
https://kyotomiyama.jp/

美山町の美味しいもの

美山牛乳ジェラート
美山町のグルメといえば美山牛乳を使ったジェラート。地元のフルーツや野菜を使った限定フレーバーも人気。道の駅美山ふれあい広場に立ち寄ってぜひご賞味ください！



12奈良県

川上村

吉野川紀の川源流ツーリズム推進協議会

本当に大切なものがここにある

川上村は、和歌山の海へと注ぐ「吉野川（紀の川）」の源流に位置しています。手つかずの原生林である「水源地の森」に代表される豊かな生態や、室町時代から陣々と訪れてきた吉野林業による人工林をはじめ、森と共生してきた文化や風土が色濃く残る村です。

また、後南朝にまつわる深い歴史のほか、透き通るせせらぎや、きれいな空気が生み出す満天の星空など、魅力的な資源が豊富な村でもあります。近年では大迫ダムや大滝ダムが建設され、水がめめの村としてさらなる機能を持つとともに、カヌー体験など新たな湖面活用も始まっています。村での体験を通して、川上村の持つ魅力とその大切さを感じてください。

四季折々のエコツアー



星空観察会
豊かな星は澄んだ星空を魅せてくれます。



ケイビング
地球の神秘を感じる天然洞窟を探検



キャニオニング
源流の迫力ある流れにいきダイブ！



氷瀑トレッキング
神秘的な冬の絶景。は雪の山頂！

お問い合わせ先

吉野川紀の川源流ツーリズム推進協議会
（事務局：川上村水源流ツーリズム推進室）
かわかみ源流ツーリズム推進室
〒746-02-0111（平日8:30～17:15）
https://g-tourism.jp/（R2年4月公開予定）

川上村の美味しいもの

柿の葉寿司
瑞穂した柿の葉の押し寿司を柿の葉で包んでいます。柿の葉は初夏の新緑、秋の紅葉など季節感に溢れる食感をそそぎます。お店ごとに違う、こだわりの味を楽しめます。





13 愛媛県
西条市
久万高原町

愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会

心洗われる神秘の霊峰「石鎚」

石鎚山系は、西日本最高峰で日本百名山・日本七霊山の一つ「石鎚」を中心に、愛媛県と高知県の境に沿って東西50kmに及ぶ山域で、標高1,500m以上の山が連綿をなして太平洋側と瀬戸内海の気候を隔てています。また、急峻な地形から、手つかずの自然が多く残っているほか、裏道帯から里道帯まで幅広い地生の垂直分布を有し、西日本有数の自然の宝庫でもあります。西条市側では、修験道体験や自然観察会、標高1,300mでのスターナイトツアーなどが、久万高原町側では、国の名勝に指定されている「間河溪」でのトレッキングやキャニオニングといったアクティビティなどが楽しめます。石鎚の豊かな自然や歴史、文化等を活かしたエコツアアがたくさんあります。

四季折々のエコツアア



5~2月

石鎚山スターナイトツアー

神秘的な自然を満喫する標高1,300mの星の観察ツアー



6~10月上旬

面河溪キャニオニング

エメラルドグリーンに輝く清流で石鎚の自然を体験



9~11月

聖なる森 面河古道トレッキング

半世紀以上にわたる歴史ある森を歩く



通年

石鎚ガイドツアー

春夏秋冬問わず四季折々の自然を満喫

石鎚の美味しいもの

上浮穴高校

桃太郎とまもとハヤシソース

久万高原町は西日本有数のトマト産地。この町で採れる美味しいトマトを使った商品開発に取り組み始めて約5年。上浮穴高校生が考えた特製ハヤシソースが完成しました。



お問い合わせ先

愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会
(事務局) 愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会
〒797-7211 西条市 西条 269
☎ 097-721-2365
http://shizumi-ecotourism.com/



14 熊本県
阿蘇地域

阿蘇ジオパーク推進協議会

阿蘇火山の大地と人の暮らし

阿蘇を震源とする世界有数のカルデラ地形は、約9万年前の巨大噴火がもたらした影響です。そのことを理解できる場所が「大観峰」です。また、地球の息吹を感じることのできる「中岳火口」は、アクティブな火口を直接見ることができ、世界的にも稀有な場所です。周辺の「砂千景」や「草千里」などの特殊景観も主な見所です。この阿蘇カルデラの中には、約5万人の人々が住み続け、火山がもたらした恵みと人々の暮らしによって、独特の文化を築いてきました。日本一の面積を誇る草原景観は、さらには、阿蘇火山の神格化による「阿蘇神社」や農耕祭りの歴史も受け継がれ、湧水や温泉も豊富な地域です。

四季折々のエコツアア



通年

阿蘇草原ライド

昔ながらの乗馬文化を体験しながら自然を満喫



3~11月

阿蘇アバベンチャーラック

冒険心をくすぐる乗馬体験と自然を満喫



通年

阿蘇ホーストレッキング

自然の中を馬に乗って自然を満喫



通年

阿蘇ジオパークガイドツアー

ジオパークの魅力を満喫しながら自然を満喫

阿蘇の美味しいもの

あか牛の肉

阿蘇の原産で育ったあか牛の肉は、赤身が多く、ヘルシーです。あか牛丼は、あか牛肉のステーキがご飯の上に贅沢に盛り付けられ、手軽にたっぷり楽しめる阿蘇の定番グルメの1つです。



お問い合わせ先

阿蘇ジオパーク推進協議会
〒960-0100 阿蘇市 阿蘇 1030-1
☎ 0967-82-0088
http://www.aso-geopark.jp/



15 宮崎県
串間市

串間エコツーリズム推進協議会

自然満喫!のんびり南国時間

宮崎県の最南端に位置する串間市は、武士の馬が野生化して生息する「都井半島」を始め、日本霊長類の発祥地「草島」、日本清道「石波海岸」など、豊富な自然観光資源が市街地から車で30~40分圏内にあります。なかでも都井半島は、迫力あるオス馬の争いや可愛い子馬に出会える「野生馬ガイドツアー」や、馬の保護活動がエコツアア化した「都井半島馬追い体験」が人気を集めており、全国からファンが訪れています。この他にも、グアバや、宮崎発祥の果物である日向夏など、南国果実の収穫体験ができるエコツアアも楽しむことができます。串間市では、この豊かな自然観光資源を次世代に送り届けることを目的にエコツーリズム推進に取り組んでいます。

四季折々のエコツアア



7~8月

和紅茶手もみ体験

串間産の生葉茶で自分だけの特別な和紅茶作り



8月下旬~9月上旬

完熟グアバ狩り&まるかじり体験

完熟するグアバを収穫しながら自然を満喫



通年

定置網体験ツアー

ブリやシタ、トビウオなどを獲るダイナミックな漁体験



通年

都井半島野生馬ガイドツアー

国の天然記念物 御嶽馬と都井半島の魅力をガイド

串間の美味しいもの

串間活メぶりブリ丼

ご当地グルメ「串間活メぶりブリ丼」は、四季折々の新鮮な地元野菜（トマト・オクラ・甘藷など）と、黒潮が育てたブリのブリで作る野菜海鮮丼。あけ汁付きで税込1,100円。



お問い合わせ先

串間エコツーリズム推進協議会
(事務局) 串間市エコツーリズム推進協議会
〒997-7211 串間市 西条 269
http://www.city.kushima.lg.jp/enjoy/eco.html



16 鹿児島県
奄美群島

奄美群島エコツーリズム推進協議会

個性豊かな自然と伝統文化に出会える島々

鹿児島県にある奄美群島は有人8島で構成されています（奄美大島、加計呂麻島、徳島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島）。固有種が多く生息・生育する亜熱帯照葉樹林、美しい海岸景観、サンゴ礁の海など、島ごとに特徴的な自然環境と、その自然との関わりの中で形成されてきた暮らしや伝統文化、長寿・子宝といった個性的な特徴を有しています。すべての島が国内34か所目となる国立公園に指定されており、さらに世界自然遺産登録に向けた取組が進められています。世界に誇れる豊かな自然環境と多様な文化の両面を感じることが出来る島々です。

四季折々のエコツアア



通年

金作原散策 (奄美大島)

固有の動植物を観察しながら亜熱帯の森を散策



通年

ケイビングツアー (沖永良部島)

地下（洞窟内）に広がる神秘的な鍾乳洞を探索



通年

ダイビング・スキューバダイビング

初心者から上級者まで満足できるダイビングポイントが豊富



1~3月

ホエールスイム・ウォッチング

大迫力のクジラと一緒に泳ぐ夢のような体験

奄美の美味しいもの

黒糖焼酎

黒糖を主原料とした焼酎で、奄美群島でのみ製造が認められています。ほんのり甘い味わいを感じられる特産品です。



お問い合わせ先

エコツアアについて
奄美群島観光推進協議会（奄美と奄美）
鹿児島県奄美市大港 18-6
☎ 0997-56-4888
http://www.geoparkami.jp/
奄美群島のエコツアアについて
奄美群島エコツーリズム推進協議会
(事務局: 奄美群島広域事務所)

